

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	72人	国語B	72人
② 算数A	72人	算数B	72人
③ 理科	72人		

5 留意事項

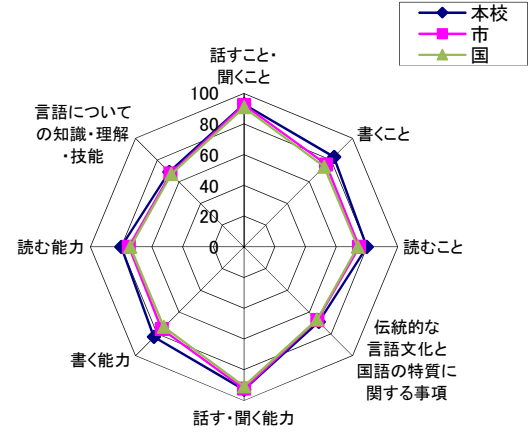
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

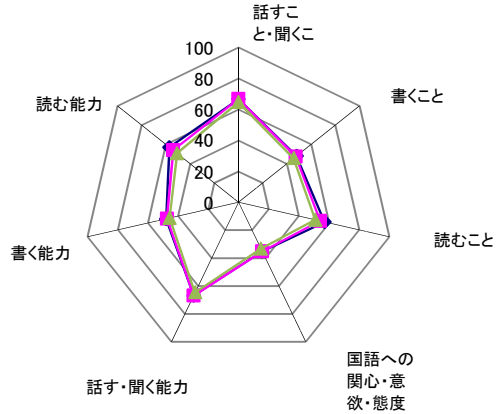
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	92.9	92.4	90.8
	書くこと	82.9	75.7	73.8
	読むこと	80.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.9	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	92.9	92.4	90.8
	書く能力	82.9	75.7	73.8
	読む能力	80.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	68.9	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	66.8	64.6
	書くこと	48.0	47.4	45.6
	読むこと	57.1	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	35.2	35.2	33.2
	話す・聞く能力	66.7	66.8	64.6
	書く能力	48.0	47.4	45.6
	読む能力	57.1	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

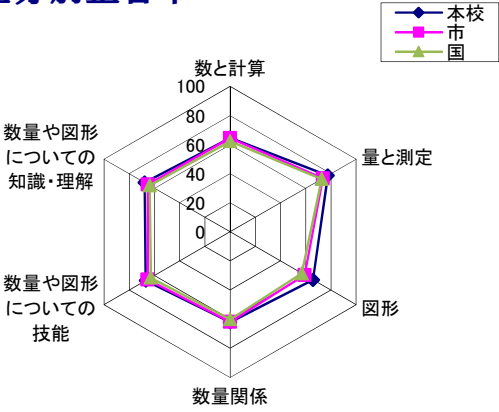
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○質問の意図をとらえたり、相手や目的に応じて自分が伝えたいことを事例を挙げて話したりする設問では、全国の正答率に比べて高い。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて考えをまとめる」という設問では、全国の正答率に比べて5ポイント下回っている。	・グループやペアなどでの学び合いの場を設け、友達の意見を聞く際に共通点や相違点などを考えながら聞き、それを受けて自分の考えをまとめ話せるように支援する。 ・スピーチをする際には、相手意識や目的をもたせ、自分が伝えたいことを適切に話せるように支援する。
書くこと	○「自分の想像したことを物語に表現するために文章全体の構成の効果を考える」の設問では、全国の正答率に比べて20ポイント近く上回っている。 ●「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」の設問では、全国の正答率に比べて2ポイント近く下回っている。	・「書くこと」の単元では、教材文で学習する際に構成や表現などについての的確に押さえ、目的や相手を明確にした文章が書けるように支援する。 ・文章を書く機会を設け、意見文や感想文、随筆など様々な形式で文章が書けるようにする。
読むこと	○「目的に応じて必要な情報を捉える」「登場人物の心情について情景描写をもとに捉える」の設問では、全国の正答率に比べて6ポイント近く上回っている。 ●「目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む」の設問では、全国の正答率に比べてわずかに下回っている。	・「読むこと」の単元の学習では、叙述に即して人物同士の関係を捉えたり、心情の変化を読みとったりする学習を丁寧に行う。また、目的や学習のめあてを明確にして、目的意識をもって読むように支援する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使う」の設問では、全国の正答率に比べて2.5ポイント上回っている。 ●「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」の設問では、全国の正答率に比べてわずかに下回っている。	・習得した漢字や語句を文章で進んで使うよう、日常生活の中で継続的に指導する。 ・相手や場面に応じて敬語が使えるように日常生活の中で継続的に指導する。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

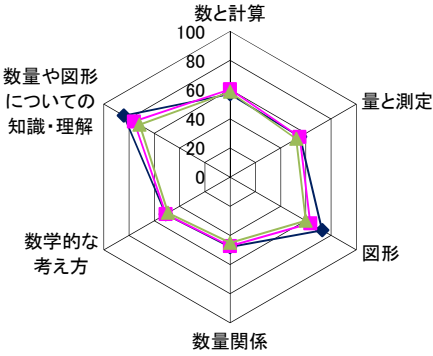
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.6	64.5	62.3
	量と測定	77.5	73.6	72.7
	図形	65.7	59.1	56.9
	数量関係	62.0	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	66.9	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	67.9	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	56.9	60.2	58.4
	量と測定	55.4	55.0	52.4
	図形	72.9	63.5	59.9
	数量関係	48.0	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	51.0	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	84.3	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

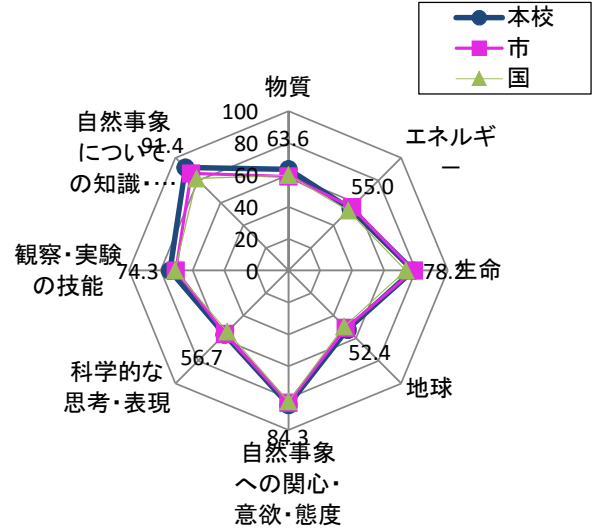
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○1に当たる大きさを求める問題場面において数量の関係を理解し、数直線上に表す問題では、全国の正答率より16ポイント以上高い。 ○条件を変更して数量の関係を考察し、分配の法則を適用して考えを記述する問題では、全国の正答率より3ポイント高い。 ●規則性を見つけ、それを基に条件に合うものを判断する問題では、全国の正答率より14ポイント下回っている。	・グループやペアでの話し合いを意図的に行わせることで自分では気付けない法則性に気付くことができるようになるなど、考えを広められるよう支援する。 ・計算プリントや計算ドリルに繰り返し取り組み、様々な計算の技能を確実に身に付けることができるように支援する。 ・問題を解く上で、共通するものや違うものをより分けて考える思考の仕方を体験させ、問題を解決するための着眼点に気付けるようにする。
量と測定	○異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べる問題では、全国の正答率より3.6ポイント上回っている。 ○単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を求める問題は、全国の正答率より10ポイント高い。 ●示された数量を関連付けて根拠を明確に記述しなければならない問題では、全国の正答率に比べてわずかに下回っている。	・単位量あたり問題では、数直線を使い視覚化させて解くことを定着させ、問題の解き方の幅が広がるように支援する。 ・自分の考えをノートに書かせるだけでなく、ペア活動での発表を取り入れることで根拠となる事柄を説明できるようにする。
図形	○直径の長さや円周の長さの関係についての問題では、全国の正答率より14ポイント上回っている。 ○合同な三角形で作られた図形の中に、条件に合う図形を見つけ出す問題では、全国の正答率に比べて12ポイント高い。	・円周と円周率の関係を図形を描くことで確認させ、図形の特徴を見つけ出すことができるようにする。 ・平面図形や立体図形の面や辺の位置関係を、具体物を操作することで理解できるように支援する。
数量関係	○折れ線グラフから変化の特徴について読み取る問題では、全国の正答率より5ポイント上回っている。 ●全体の中で、比べられる量は何%かを選ぶ百分率の問題では、全国の正答率より6ポイント下回っている。 ●除法で表すことができる二つの数量の関係を求める問題では、全国の正答率より7ポイント下回っている。	・具体的な数値を別な数値に置き換える経験を意図的にさせることで、単位量との関係を理解できるようにする。 ・二つの数量の関係を図式化する作業を取り入れることで、割合が全体の中のどのくらいかを考えられるように支援する。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	63.6	59.0	59.8
	エネルギー	55.0	56.4	53.1
	生命	78.2	78.6	73.6
	地球	52.4	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	84.3	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	56.7	56.1	54.1
	観察・実験の技能	74.3	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	91.4	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題では、全国の平均を5ポイント以上上回った。 ○食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題では、全国の平均を10ポイント以上上回った。 ●食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く問題では、全国の平均を5ポイント近く下回った。	・実験・観察する時間を確保するなどしてさらに充実させ、予想を立てたり結果を考察したりと、自分の言葉で説明ができるように支援していく。
エネルギー	○風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題では、全国の平均を6ポイント以上上回った。 ●回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ問題では、全国の平均を3ポイント以上下回った。 ●回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した妥当な考えを選ぶ問題では、全国の平均を4ポイント以上下回った。	・実験・観察の目的を明らかにして問題意識をもって取り組ませるようにする。 ・予想を立てたり結果を考察したりと、自分の言葉で説明をする活動を充実させる。その際、考えの根拠を示したり、理科の言葉を使った説明ができるように支援していく。
生命	○腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を「関節」と答える問題では、全国の平均を10ポイント以上上回った。 ○生物を観察できる方法を選ぶ問題や、人の腕が曲がる仕組みについての問題や、鳥や人の腕の作りについてどのような視点を基にまとめた内容なのか選ぶ問題では、全国とほぼ同程度の正答率だった。	・今後もわかる授業の展開を工夫していく。また、理科用語やポイントなどを繰り返し指導して定着を図る。
地球	○流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ問題では、全国の平均を10ポイント近く上回った。 ○一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、理由を書く問題では、全国の平均を7ポイント上回った。 ●区分全体の正答率では県や全国を上回っているが、他の区分と比較すると正答率が低く二極化している。	・日常生活や自己の経験などから、自然事象への興味関心を高めていくために意図的に自然に触れさせていく。また、理科的事象と関連付けて物事を考えられるよう支援していく。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしていますか」に対して児童の肯定的回答が100%であり、全国の割合より2.8ポイント高い。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。」に対して児童の肯定割合も、全国の割合より15.1ポイント高い。○学校の授業時間以外に平日1日1時間以上勉強している児童が全国の割合より7.1ポイント高い。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する児童の肯定的回答は50.3%で、全国の割合より17.3ポイント低い。

この結果から、家庭学習の習慣は定着してきていることがわかる。しかし、計画を立てて学習を行うことはあまりできていない。今後とも、継続的な自主学習への取り組みを奨励していくとともに、さらに、自分で課題を決めて、いろいろな教科を計画的に学習できるように声かけを行っていく。

●毎日朝食を食べているか、同じ時刻に寝ているかという質問では、肯定的回答が全国の割合よりやや低かった。また、毎日同じくらいの時間に起きているかという質問の肯定的な回答が10ポイント近く低かった。今後は家庭との連携を図り、保健や学活、家庭科などの教科とも関連を図りながら望ましい生活習慣についての指導に取り組んでいきたい。

○社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思うかという質問に対して、肯定的回答が全国の割合より3.3ポイント高かった。

●5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思うかという質問や、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたかという質問の肯定的回答が、どちらも10ポイント近く低かった。

この結果から、社会や自然のことがらに疑問をもったり、おもしろいと感じたりはするが、解決に向けて自分から取り組んだり、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したりすることまでには繋がっていないことが分かる。また、考えを発表することに対して苦手意識がある児童が多いことから、ペアや小グループでの伝え合いや話し合い活動を意図的に設定するなど、苦手意識をなくせるようにしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して「当てはまる」と回答した児童の割合は90%を越え、全国の平均より5ポイント近く高い。今後も、いじめは絶対に許されないことであるという意識をしっかりと持たせたい。また、道徳や学級活動の授業、縦割り班活動などの異学年交流を通して、人との関わり心地よさを実感できるように指導していきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	机間指導等において一人一人を丁寧に見取って指導したり、算数では少人数指導やTT指導を行ったりすることで、個に応じた指導の充実を図っている。また、児童が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、学習展開を工夫している。	どの教科でも基本的な知識や技能に関わる問題の平均正答率は高くなっている。しかし、記述式の問題など理由を説明したり、自分の考えを述べたりする問題の正答率が高いとは言えないので今後の課題として取り組んでいきたい。
家庭学習の定着を図る工夫	宿題の内容を工夫したり、3～6年生の自主学習用に「家庭学習のヒント集」を配布したりして、学年に応じた目標時間取り組んで、提出するよう指導している。	「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は100%だが、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」は55%未満である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式の問題など理由を説明したり、自分の考えを述べたりする問題の正答率が低く、苦手意識をもっている。	書く力を身に付けさせるための工夫	授業の中で、自分の考えを書く場を意図的に設定したり、授業の終わりに分かったことなどを振り返り、ノートに書く時間を設ける。また、これらを全体やグループで発表し、様々な意見や考え方を共有させる。